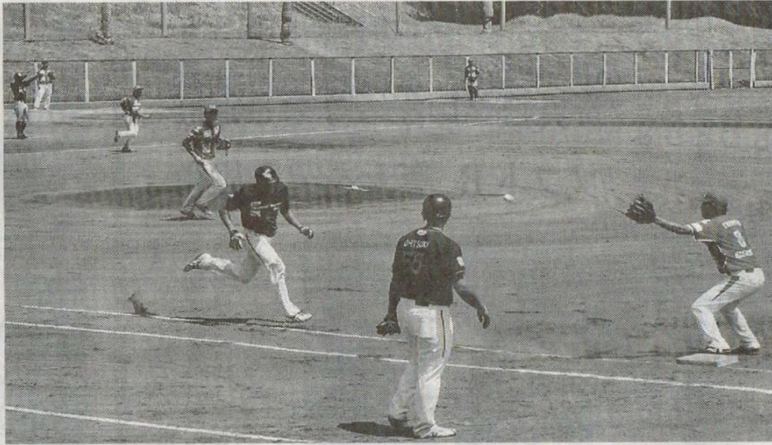


和歌山F B

串本で公式戦

地元少年ボールボーイなど体験



和歌山F Bと06 BULLSの公式試合（串本サング台）

串本サング台にあるサン・ナンタシランド総合運動公園の野球場で19日、野球独立リーグ「ベースボール・ファースト・リーグ」（BFL）所属の和歌山ファイティングバーズ（F B・串本市）と06 BULLS（大阪府東大阪市）の公式戦があった。地元少年野球2チームが試合を観戦し、ボールボーイやアナウンスなどを体験し、野球教室もあった。

BFLには、近畿地方の3チームが加盟しており、年間のリーグ戦はホームとビジター18試合ずつの計36試合がある。串本での公式試合は今回が初めて。本州最南端のグラウンドで試合をすることで、同リーグの野球を多くの人に知ってもらおうのが狙い。

和歌山F Bは、田辺スポーツパークと上富田スポーツセンターの野球場をホームグラウンドにしている。和歌山市出身で、プロ野球の読売ジャイアンツや日本ハムファイターズにいた山崎章弘さんが監督を務める。選手は21人。

オーブニングセレモニーで行われたことに触れ「町では数年前から球場の整備に力を入れてきた。その効果もあり、社会人野球や大学の野球部の皆さん方に多く合宿に来ていただいている。今回、独立リーグの試合を間近に見させていただけを本当にうれしく思う」と歓迎した。両チームに、町が製造販売している災害用備蓄水「なんたん水」を贈った。

串本ライオンズクラブの尾崎和貴会長による始球式で、試合開始。和歌山F Bは、チームで唯一の真内出身選手、大前拓也内野手（白浜町出身）が6番セカンドでスタメン出場した。試合は、2回裏に和歌山F Bが2点を先制し、その後、ホームランも飛び出すなど4-3で勝った。

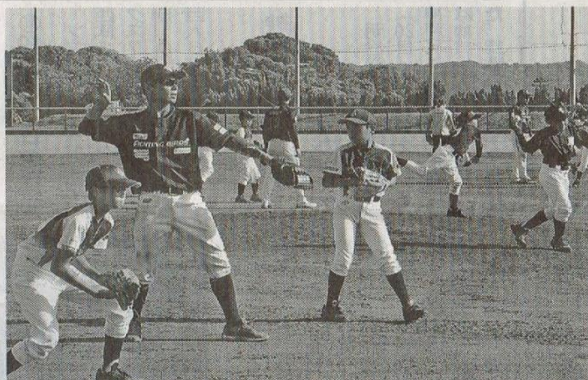
試合には、一般他、地元の串本オーシャンズの子ども25人と、KKN少年野球クラブの子ども14人が観戦に訪れた。子どもたちは「かっこはせ」「和歌山最強」などと声援を送り、和歌山F Bの選手がヒットを打つと「ナイスバッティング」と喜んだ。試合中、2チームの子どもがボールボーイやアナウンスを体験するなどした。

串本オーシャンズの主将、切畑椋君（小学6年）は「早いボール回しや、キャッチャーのセカンドへの素早い送球がしっかりとできていてすごいと思った」、KKN少年野球クラブの主将、杉本龍河君（小学6年）は「ボールボーイでグラウンドの中から試合を見たが、すごく迫力があった」と話した。

試合終了後、2チームの子どもらを対象にした野球教室があった。和歌山F Bの山崎監督や選手が、ボールを投げる際に相手の胸を自掛けることや、取る時も胸の辺りでキャッチすること、投げる相手の方向に足をステップすることなどを教えた。守備やバッティング練習もした。

串本では9月16日正午から、和歌山F Bと兵庫ブルースサンターズ（兵庫県三田

市）の公式試合がある。入500円、18歳以下が無料。場料は、19歳以上が千円。障がい者、野球場の受付で支払う障害者手帳を持っている人がこ



和歌山F Bの選手から指導を受ける地元少年野球チームの子ども